

宮崎善仁会病院 リウマチセンターニュース

第47号 (2026年4月号 [2026/4/1 発行])

春の訪れを感じる季節となりました。皆さま、いかがお過ごしでしょうか。宮崎では日中は暖かくなってまいりましたが、朝晩との寒暖差がある時期でもあります。体調を崩しやすい季節ですので、どうぞお気をつけてお過ごしください。

さて、本号では、

「改訂された肺炎球菌ワクチン定期接種」

のお話ししたいと思います。

【肺炎は高齢者にとって大きな負担】

肺炎は、高齢になるほど重症化しやすく、入院のきっかけになるだけでなく、その後の体力低下や日常生活動作の低下にもつながる病気です。とくに関節リウマチの患者さんでは、年齢に加えて、ステロイドや免疫を抑える治療、生物学的製剤、JAK阻害薬などを使用している方もおられ、感染症への注意がより大切になります。肺炎球菌ワクチンは、そのような肺炎球菌による肺炎や重い感染症を予防するためのワクチンです。

【2026年4月1日から何が変わった？】

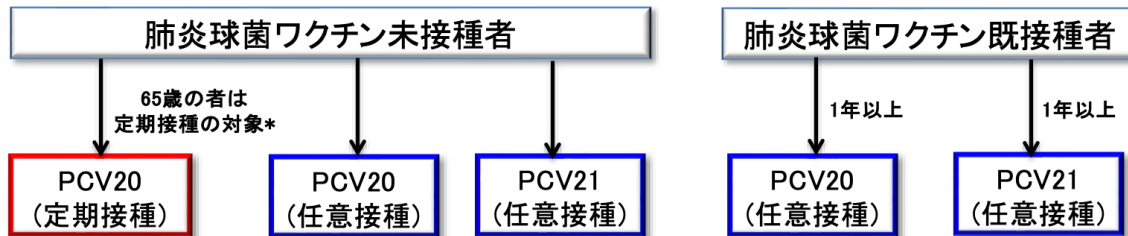
今回の大きな変更点は、65歳以上の方などを対象とした定期接種のワクチンが変わったことです。これまで高齢者の定期接種で使われてきたのは、「ニューモバックス NP (PPSV23)」でした。しかし、2026年4月1日からは、プレベナー20 (PCV20) が定期接種ワクチンとなりました。つまり、これからは「65歳になったら肺炎球菌ワクチンの定期接種はプレベナー20」と理解していただくのが分かりやすいと思います。

【プレベナー20 ほどのようなワクチン？】

プレベナー20は、20種類の肺炎球菌の血清型に対応した結合型ワクチンです。結合型ワクチンは、従来の多糖体ワクチンとは異なる仕組みで免疫をつくるため、現在の高齢者肺炎予防の中心として位置づけられるようになりました。図に示すように、2026年4月以降の65歳以上成人に対する考え方として、定期接種対象者がPCV20を受け

65歳以上の成人に対する肺炎球菌ワクチン摂取に関する考え方(第8版/2026年4月1日) 日本呼吸器学会/日本感染症学会/日本ワクチン学会 合同委員会

2026年4月以降の摂取



注意

- #1. 定期接種対象者が、定期接種によるPCV20の接種を受けられるように接種スケジュールを決定することを推奨する。
- #2. PPSV23未接種者に対して連続接種することも考えられる。その場合はPCV15→PPSV23の順番で連続接種する。
- #3. PPSV23の再接種は選択肢としない。
- #4. PCV13/PCV15/PCV20既接種者については、安全性の観点からは1年以上の間隔で接種することができる。
- #5. PCV20およびPCV21接種後のワクチン効果の持続は5年程度と考えられるため、免疫原性の観点からはPCV20あるいはPCV21接種後5年以降の再接種が必要と考えられる。しかしながら、現時点でPCV20およびPCV21接種後の再接種の免疫原性、安全性のデータはない。

*60歳以上65歳未満で日常生活が極度に制限される程度の基礎疾患を有するものも定期接種の対象者となる

られるように接種スケジュールを決めることが推奨されています。(リウマチセンターニュース No. 12、No. 33 もご参照下さい)

【ワクチンを受けたことがある方は？】

ここは患者さんが最も迷いやすい点です。すでに肺炎球菌ワクチンを受けたことがある場合は、接種歴によって今後の考え方が変わります。日本呼吸器学会・日本感染症学会・日本ワクチン学会の合同委員会による資料では、PPSV23の再接種は選択肢としないこと、またPCV13、PCV15、PCV20既接種者については1年以上の間隔で接種できることが示されています。さらに、PCV20およびPCV21の効果持続は5年程度と考えられる一方、再接種後の免疫原性や安全性のデータは、現時点では十分でないとされています。そのため、「以前打ったからもう不要」と自己判断せず、主治医に相談することが大切です（この考え方は以前と変更になりました）。

【キャップボックスはどうなりますか？】

最近、「キャップボックス（PCV21）」について耳にされた方もおられるかもしれません。キャップボックスは21価の肺炎球菌結合型ワクチンで、高齢者または肺炎球菌感染症のリスクが高い成人に対する予防ワクチンです。ただし、2026年4月時点では、高齢者の定期接種として使われるのはプレベナー20であり、キャップボックスは定期接種ではありません。この点は混同しやすいため、まずは「定期接種はプレベナー20に変わった」と覚えていただければ十分です。キャップボックスの詳しい特徴や位置づけについては、次号

で改めてご紹介する予定です。

【今回の一番大切なポイント】

2026年4月1日から、65歳以上の肺炎球菌ワクチン定期接種が、ニューモバックスからプレベナー20へ変わったということです。肺炎予防は、単に感染を防ぐだけでなく、入院、体力低下、フレイルを防ぐことにもつながります。とくにリウマチ患者さんでは、感染予防は日々の治療を続けていくうえでも重要です。接種の対象や、これまでの接種歴による違いが気になる方は、どうぞ外来でお気軽にご相談ください。

(日高利彦)

日高利彦医師が Doctor of Doctors Network ドクターが薦める専門医™ 2026-2028 に認定されました

当院リウマチセンター長 日高利彦医師が「ドクターが薦める専門医™ 2022-2025」に認定されました。「2022-2025」に引き続きの受賞となりました。

ドクターが薦める専門医（「優秀専門臨床医」より名称変更）™とは、T-PEC 株式会社が提供するサービス「ドクターオブドクターズネットワーク®」の特別顧問および評議員が、本人もしくは家族が入院や手術が必要になった場合においてお願いしたいと思える医師であること等の推薦基準を満たした医師を推薦選考基準に基づき、各評議員会において全会一致で選考された医師のみが優秀専門臨床医™として認定されています。



リウマチセンターニュースのバックナンバーの必要な方は当院の職員に気軽にお尋ね下さい。なお、当院のホームページでもバックナンバーを確認出来ます。

(https://www.m-zenjin.or.jp/publicity_cat/publicity_1)

(QRコードは右の通り)

